

阪奈サナトリウム

住所	四條畷市上田原 613 番地	電話	0 7 4 3 -7 8 -1 1 8 8
病床数	2 1 3 床	病棟数	4 病棟

人権センターニュース No.78 より

オンブズマン活動報告

平成 18 年 2 月 10 日訪問

病院全体平均在院日数約 450 日。平成元年築の南館、昭和 54 年築の東館、昭和 56 年築の西館にまたがって病棟があり、その他敷地内に援護寮、デイケア、老人保健施設、法人事務部などがある。

【診察】西病棟には診察室があり、その他の病棟では詰所内にて診察。南 3 階は診察室を新設中とのこと。

【電話】東病棟では、患者の権利宣言が掲示されていた。西病棟は電話の両隣には鍵付きのロッカー、外出時に裏返す名札があり、電話の後にはソファが並んでいた。病棟内でもかなり人が多い場所だった。

【洗濯】東病棟では洗濯は病院に出す。患者の声「氏名を記入しているので持ち主のところへ返ってくるが、靴下などは違う組み合わせになって返ってくることもある」。掲示物によると洗濯代は月 4200～9000 円。南病棟、西病棟には洗濯機があり、洗濯機の使用料は月 2500 円。

【喫煙】南 2 階病棟：1 日 10 回の時間が決められていた。介助用入浴室の更衣室に 3 個の灯油缶が置いてあり、そこで 10 人弱が吸う。

東病棟：1 日 10 回ほど喫煙できる。喫煙空間は吸煙装置があった。煙草、ライターは詰所で管理し、1 本ずつ渡されている。西病棟：煙草は自己管理。喫煙室があり、完全分煙だった。

【金銭管理等】西病棟以外では、金銭は全員事務所管理で、西病棟では患者や病院側の話によると 2 万円まで個人ロッカーに持つことができ、ロッカー代は月 500 円。金銭管理料は「院内売店、喫茶店利用の清算業務」という名目で、1 日あたり、生活保護 50 円、管理能力にあわせ 100 -150 円。金銭管理の収支明細について複数の患者によると「家族に送られる」「毎月、(本人が)受取っている」「受け取っていない。受け取る家族もいない」「ケースワーカーに言ったら見せてもらえる」とのこと。

院内売店、喫茶では現金は使用できず、専用のプリペイドカードか金券で支払われる。金券には 50～1000 円があり、氏名と有効期日(3 ヶ月)が印刷されていた。病院側によると「院内作業療法で紙袋の内職作業によって得た利益を、参加者に分配している。本人の預り金に振り込み、金券の有効期日が過ぎても現金は本人に還元されている」とのこと。

【OT プログラム】週間メニューによると、生産作業・陶芸・園芸がある。全員一斉のプログラム以外に、手芸、革細工、料理などの個人プログラムもある。患者の声「紙袋づくりに行っている。27 日行って 2800 円」「遅刻厳禁。遅刻したら参加できない」

【喫茶】病棟ごとに利用日が決まっている。訪問日は西病棟の患者がカラオケをしていた。コーヒー 1 杯 150 円。

患者の声「週に 1 回いける」「とても楽しい」「甘いものを食べられる」

【庭】南館の屋上にベンチのある庭園があった。病院側によると、安全確保のため普段は施錠していて、患者の希望に応じて職員の付き添いで来ることになっていた。

南2階病棟（男女・閉鎖病棟）

病院側によると入院初期の病棟。

【入浴】入浴は週3回。介助入浴は週2回。上階にある新しい大きな浴室に行くとのこと。

【食事】病院側によると、部屋の床頭台で食べる。のど詰めの恐れのある人は、ホールで食事をするとのこと。

【病室】窓は南に向いており、太陽の光が入っていた。「夏場は、スクリーン（日除け）をかける」との説明。6人部屋。荷物は衣装ケース2個まで。入浴後のためか、ベッドで寝ている患者が多く、無口で静かな人が多い印象だった。個室は「病状によって使用」とのことで個室料はかからない。

【トイレ】手すりがあった。トイレに入ると、センサーで電気がつく。床は洗ったあとのようで清潔。トイレの入口には、中で使っている人の顔がみえないようカーテンがついていた。

【患者の声】「診察は、週1回。院長先生と会うと緊張する」「何か困った時は、事務所にいるケースワーカーに病棟にきてもらって相談することになっている。相談室を使うこともある」「鍵つきロッカーが欲しい。盗まれるので、床頭台に物をおけない」「水曜に買い物にいけ、木曜はカラオケとケーキ200円で食べられるのが嬉しい」

南3階病棟（男女・閉鎖病棟）

個別開放病棟。慢性期で安定している患者、高齢の患者の病棟。この階で安定した人は、西病棟に移り、西病棟から援護寮に退院していくことが多いとの説明。

【食事】病棟内に食堂がなかった。病院側によると上の階の大きなホールでする人と、部屋でする人もいる。

【東館1階部分（南3階病棟に含まれる）】部屋は、畳部屋で布団が6つ敷かれた部屋が2室、畳部屋で3-4人で1室。小さなホールに、テレビ、長椅子1脚（ビニールの部分が破れていた）、ビニール椅子2脚。若い男性が、静かにテレビをみていた。

【患者の声】「食事は、おいしい」「ここの暮らしに満足している」「私は、ここで満足している」「これでいい」

東病棟（男女・閉鎖病棟）

【病室】ベッド間は、療養に必要な距離が確保されている。東館の改築されているフロアの女性病室は、各室でエアコンのON/OFFの操作ができた。概ね、日当たりと風通しはよかった。

【デイルーム】落ち着いた暖色系の空間で、清潔感のある空間であった。自由に飲めるお茶があった。

【患者の声】「退院した人が月に1回迎えに来てくれて、パチンコに行く。4時半までに帰る」「外出したいが聞いてもらえない」「職員の対応がいい」「院内作業療法に参加している」「毎週水曜日に売店で買い物をする」「1年半入院しているが、トラブルは一度も見たことがない」「ものを盗られたことがある」「退院やお金のことについて、ケースワーカーが相談に乗ってくれる」「退院したくても、住むところがない」「退院は主治医に相談している。」「娘が家に連絡するなど言っている」「水曜日だけ売店に行ける。他の病院では週2回だった」「外出は午後3時半から4時まで裏庭に出るくらい。屋上庭園は5分だけ開放する。もっと外出したい」「看護師の付き添いで、午後3時半から4時まで病院のまわりを歩く。屋上庭園は患者の希望で開ける。毎日ではない」「けんかなどはない。職員はやさしい」「ご飯がおいしい。水、特にお茶がおいしい」「病院は静か。職員は年配の人がやさしい。おむつなんかしてても介護の人が取り替えてくれる。トイレまでついて行ってはもらえないが、おむつで満足」「系列の病院に眼科などの検査で行くとき、車から見える外の景色が嬉しい。こないだは鶴橋のホルモンを食べに

行く夢を見た。裏庭に行くことはない。屋上庭園は30分くらい。週1回もない」「(楽しみは)テレビの部屋。大ホールのカラオケ」

西病棟 (男女・開放病棟) 5・6年前に改築

平均年齢60歳くらい。退院準備期の病棟、介護が必要になったら内科病棟などに移ることもあるとの説明。

外出は廊下にある名札をジャスコ・生駒駅・作業療法・院内売店などの外出先に掛けかえて出かける。

【トイレ】病棟内に3箇所に分かれてあった。手洗いには鏡、石鹸、ペーパータオルがあった。

【食堂・談話室】食堂にはテレビ、本、雑誌があった。食事の際の座る場所が決まっていた、テーブルには小さな字で名前が書かれたシールが貼ってあった。談話室は詰所から離れた位置にあり、机、椅子、本棚、テレビ、テレビを囲むようにソファがあった。食堂よりも談話室の方が広く、ゆったりしていた。食堂や詰所近くの廊下に患者は多かったが、談話室には患者1人だった。

【病室】2・4人部屋。ベッドは新しそう。私物は床頭台とベッドの上にある扉付きの棚、ベッドの下には衣装ケース2つ、廊下には鍵付きの私物入れがあった。ベッド毎にカーテン、ナースコール、詰所と双方向のマイクがあり、各室でエアコンのON/OFFの操作ができた。

【患者の声】「ケースワーカーは知っている」「(ケースワーカーは)よく病棟に来る。話をきいてくれる。」「自由に使える冷蔵庫がある」「外出は近くの公民館に本を借りに行く」「ジャスコに買い物に行く」

検討事項

【隔離室の構造について】(南2階病棟)

- ・壁はコンクリート。右奥の壁はでっばっており、頭をぶつけそうで危険だった。病院側の説明「けがをするので、柔らかい素材をつけるよう検討中である」。
- ・トイレに囲いがなく、詰所側が透明のアクリル板のため、詰所側からトイレを使う姿が丸見えになる。病院側の説明「平成18年秋には新しい隔離室が完成予定」。
- ・3室に入室している患者同士のお互いの声は明瞭に聞こえる構造であり、最も重症な時の療養環境としては、好ましくない。

(病院側の回答:隔離室や病棟のハード面の問題点は、現在病棟増改築中で、改良する予定になっている。プライバシーに配慮した環境整備も適宜すすめていく。)

【薬の手渡し・検温】すべての病棟で、薬の受け取りは患者が詰所やデイルーム等に取りに行く。西病棟では毎日患者自身が体温を計り、トイレ横に書きに行く。看護師が病室に行き、ひとりひとりに薬を手渡し、体温を計るしくみの導入を検討していただきたい。

【病棟地図の掲示】建て増しなどにより、病院の構造が複雑だった。職員、患者から「複雑な構造」「いま、どこにいるかわかりにくい。不安です」との声が聞かれた。他の病院のように、病棟内に図面を掲示して頂きたい。

【詰所単位の範囲】東病棟は南館の病室を含み、南3階病棟は東館1階を含む構造となっていた。夜勤の際にも職員がいるメインの詰所と病室は渡り廊下を隔て、声の届かない距離だった。日中、夜間を通じて看護の配慮が行き届く範囲を詰所単位とし、安心して療養できる環境の保障を検討して頂きたい。

【東病棟 喫煙スペース隣の女性病室のプライバシー保護について】たくさんの患者が集まる喫煙スペースの隣にある女性病室について、ベッド毎のカーテンがない上、病室入口のドアの窓のスクリーンシートの隙間から中が伺える状態であった。スクリーンシートは身長170センチ程の人であれば中が見える。プライバシーを守る配慮を検討していただきたい。

【カーテンの設置を】ベッド毎のカーテンのない病室があった（南、東病棟のうち一部を除く）。全ベッド毎のカーテンの設置について検討していただきたい。

【電話】全ての病棟において、公衆電話が詰所と廊下を挟んだ目の前にあった。声を遮る囲いはない。周囲に気兼ねすることなく電話できる場所への移動を検討していただきたい。

【任意入院は原則開放処遇】開放処遇の病棟を増やし、患者の実態に即した処遇を実現することを検討していただきたい。（精神療養と精神一般それぞれ 2 病棟ずつあり、うち 3 病棟は閉鎖病棟だった。訪問時、閉鎖病棟の患者 147 人のうち 95 人（65%）が任意入院であった。南 2 階病棟では半数、東病棟では 5 名の患者が単独外出をでき、南 3 階病棟では病棟の特徴として「慢性期で安定している方」と説明があり、検討事項 のような患者もいた。外出の際はノートに「氏名・出た時間・帰った時間・各々スタッフのサイン・煙草持参は ・ジュース代金 110 円を持って出た人は横線」を記載し、職員に非常口の鍵をあけてもらう。）

【金銭管理】東・南病棟：全員詰所預かりで、病棟内には鍵付きのロッカーがなかった。鍵付きのロッカーを設置し、患者の状態によっては、自己管理を認めるなどの選択肢を設けるよう検討して頂きたい。西病棟：全員が「小遣い帳」をつけ、毎月看護師が残額と合うか確認する。病院側によると「金銭管理の感覚をつかむため」とのこと。全員一律に病院職員が把握することに対し、患者から「ここまでの必要あるんですか」と疑問の声があった。全員一律ではなく、金銭管理の感覚をつかむための支援の必要がある患者に絞り、目的を伝えた上で実施するべきではないだろうか。

【意見箱】病棟内に意見箱がなかった。（病院側の回答：意見箱については設置する予定である。）

【トイレの数】（南 2 階・南 3 階病棟）南 2 階病棟では男性用の個室 1 室を 19 名で使用、南 3 階病棟の南館側（東館 1 階部分に病室のある患者は除く）では、女性用個室 2 室を 30 名で使用、男性用個室 1 室、小 3 つを 7 名で使用。患者から「トイレの数が少ない」「（男子トイレ）大便 1 室では、足りない」「増やしてほしい」との声があった。

【院内で病状が安定した方への退院支援】南 3 階病棟の一部である東館 1 階で入院の必要に疑問を感じる患者が多く見受けられた。夜間の見守りについて看護職員も「落ち着いて安定した方ばかり、自分で身辺自立のできていますので」との返答があった。病院である以上、治療のめどがつけば、退院に向けた情報提供、支援などを積極的に行っていくべきではないだろうか。（病院側の回答：症状が安定した患者に対しては、各個人に応じた退院支援を行っているが、今後も強化していく。大阪府の自立支援事業も積極的に活用している。）

【売店の値段】値段設定が高めだった。入院生活に必要なシャンプーについては通常の販売価格 700 円のものが 890 円、312 円のものが 655 円だった。閉鎖処遇で他で購入できない環境にある患者に対し、このような形で費用を徴収するのは問題ではないだろうか。

人権センターが情報公開請求で入手した

H18 大阪府精神保健福祉関係資料より（阪奈サナトリウム分）

198 名の入院者のうち、統合失調症群が 159 名（80%）、気分障害が 13 名（7%）、認知症など症状性を含む器質性精神障害が 11 名（6%）。入院形態については 198 名のうち 146 名（74%）は任意入院、52 名（26%）が医療保護入院。在院期間が 1 年未満の患者が 47 名（24%）、1 年以上 5 年未満の患者が 85 名（43%）、5 年以上 10 年未満の患者が 27 名（14%）、10 年以上 20 年未満が 17 名（9%）、20 年以上が 22 名（11%）。

（H18.6.30 時点のデータ）